

ヨハネ福音書（私的原著版）

（原著版の趣旨）

ヨハネ福音書著者は、ヨハネといわれている。ヨハネが書いた原書で、教会的編集者が手を加えて完成させたのが現在のヨハネ福音書である。私も考えている。ヨハネ福音書を読んで違和感を感じてきたが、この違和感には、田川建三訳・注によるヨハネ福音書を読んで解決した。もとの原著に手を加えられた結果であるという説明が胸にすんと落ちた。教会的編集者は誰かというところ、ヨハネの手紙を書いた人々である。田川訳を参考にして、編集者が書き加えたと思われる部分を削除して、原著を私的に復元してみた。日本語訳は、口語訳をもとにした。

（第一章）

Joh 1:1 初めにロゴスがあった。ロゴスは神と共にあった。ロゴスは神であった。

Joh 1:2 このロゴスは初めに神と共にあった。

Joh 1:3 すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった。

Joh 1:4 このロゴスに命があった。そしてこの命は人の光であった。

Joh 1:5 光はやみの中に輝いている。そして、やみはこれに勝たなかった。

Joh 1:6 ここにひとりの人があって、神からつかわれていた。その名をヨハネと言った。

Joh 1:7 この人は証言のためにきた。光について証言をし、彼によってすべての人が信じるためである。

Joh 1:8 彼は光ではなく、ただ、光について証言をするためにきたのである。

Joh 1:9 すべての人を照すまことの光があつて、世にきた。

Joh 1:10 彼は世にいた。そして、世は彼によってできたのであるが、世は彼を知らずにいた。

Joh 1:14 そしてロゴスは肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であつて、めぐみとまこととに満ちていた。

Joh 1:19 さて、ユダヤ人たちが、エルサレムから祭司たちやレビ人たちをヨハネのもとにつかわして、「あなたはどなたですか」と問わせたが、その時ヨハネが立てた証言は、こうであつた。

Joh 1:20 すなわち、彼は告白して否まず、「わたしはキリストでは

ない」と告白した。

Joh 1:21 そこで、彼らは問うた、「それでは、どなたなのでしょう、あなたはエリヤですか」。彼は「いや、そうではない」と言った。

「では、あの預言者ですか」。彼は「いいえ」と答えた。

Joh 1:22 そこで、彼らは言った、「あなたはどなたですか。わたしたちをつかわした人々に、答を持って行けるようにしていただきたい。あなた自身をだれだと考えるのですか」。

Joh 1:23 彼は言った、「わたしは、預言者イザヤが言ったように、『主の道をまっすぐにせよと荒野で呼ばわる者の声』である」。

Joh 1:24 つかわされた人たちは、パリサイ派の者であった。

Joh 1:25 彼らはヨハネに問うて言った、「では、あなたがキリストでもエリヤでもまたあの預言者でもないのなら、なぜバプテスマを授けるのですか」。

Joh 1:26 ヨハネは彼らに答えて言った、「わたしは水でバプテスマを授けるが、あなたがたの知らないかたが、あなたがたの中に立つておられる」。

Joh 1:27 それがわたしのあとにあとにおいになる方であって、わたしはその人のくつのひもを解く値うちもない」。

Joh 1:28 これらのことは、ヨハネがバプテスマを授けていたヨルダンの向こうのベタニヤであったのである。

Joh 1:29 その翌日、ヨハネはイエスが自分の方にこられるのを見て言った、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」。

Joh 1:30 『わたしのあとに来るかたは、わたしよりもすぐれたかたである。わたしよりも先におられたからである』とわたしが言ったのは、この人のことである。

Joh 1:31 わたしはこのかたを知らなかった。しかし、このかたがイサエルに現れてくださるそのことのために、わたしはきて、水でバプテスマを授けているのである」。

Joh 1:32 ヨハネはまた証言をして言った、「わたしは、御霊がはどのようにに天から下って、彼の上にとどまるのを見た」。

Joh 1:33 わたしはこの人を知らなかった。しかし、水でバプテスマを授けるようにと、わたしをおつかわしになったそのかたが、わたしに言われた、『ある人の上に、御霊が下ってとどまるのを見たら、その人こそは、御霊によってバプテスマを授けるかたである』。

Joh 1:34 わたしはそれを見たので、このかたこそ神の子であると、証言をしたのである」。

Joh 1:35 その翌日、ヨハネはまたふたりの弟子たちと一緒に立っていたが、

Joh 1:36 イエスが歩いておられるのに目をとめて言った、「見よ、神の小羊」。

Joh 1:37 そのふたりの弟子は、ヨハネがそう言うのを聞いて、イエスについて行った。

Joh 1:38 イエスはふり向き、彼らがついてくるのを見て言われた、「何か願いがあるのか」。彼らは言った、「ラビ（訳して言えば、

先生)どこにおとまりなのですか」。

Joh 1:39 イエスは彼らに言われた、「きてごらんなさい。そうしたらわかるだろう」。そこで彼らはいいて行って、イエスの泊まっておられる所を見た。そして、その日はイエスのところに泊まった。時は午後四時ごろであった。

Joh 1:40 ヨハネから聞いて、イエスについて行ったふたりのうちのひとり、シモン・ペテロの兄弟アンデレであった。

Joh 1:41 彼はまず自分の兄弟シモンに出会って言った、「わたしたちはメシヤ(訳せば、キリスト)にいま出会った」。

Joh 1:42 そしてシモンをイエスのもとにつれてきた。イエスは彼に目をとめて言われた、「あなたはヨハネの子シモンである。あなたをケパ(訳せば、ペテロ)と呼ぶことにする」。

Joh 1:43 その翌日、イエスはガリラヤに行こうとされたが、ピリポに出会って言われた、「わたしに従ってきなさい」。

Joh 1:44 ピリポは、アンデレとペテロとの町ベツサイダの人であった。

Joh 1:45 このピリポがナタナエルに出会って言った、「わたしたちは、モーセが律法の中にするしており、預言者たちがしるしていた人、ヨセフの子、ナザレのイエスにいま出会った」。

Joh 1:46 ナタナエルは彼に言った、「ナザレから、なんのよいものが出ようか」。ピリポは彼に言った、「きて見なさい」。

Joh 1:47 イエスはナタナエルが自分の方に来るのを見て、彼について言われた、「見よ、あの人こそ、ほんとうのイスラエル人である。その心には偽りが無い」。

Joh 1:48 ナタナエルは言った、「どうしてわたしをご存じなのか」。イエスは答えて言われた、「ピリポがあなたを呼ぶ前に、わたしはあなたが、いちじくの木の下のにいるのを見た」。

Joh 1:49 ナタナエルは答えた、「先生、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です」。

Joh 1:50 イエスは答えて言われた、「あなたが、いちじくの木の下のにいるのを見たとき、わたしが言ったので信じるのか。これよりも、もっと大きなことを、あなたは見るであろう」。

Joh 1:51 また言われた、「よくよくあなたがたに言うておく。天が開けて、神の御使たちが人の子の上に上り下りするのを、あなたがたは見るであろう」。

(第二章)

Joh 2:1 三日目にガリラヤのカナに婚礼があつて、イエスの母がそこにいた。

Joh 2:2 イエスも弟子たちも、その婚礼に招かれた。

Joh 2:3 ぶどう酒がなくなつたので、母はイエスに言った、「ぶどう酒がなくなつてしまいました」。

Joh 2:4 イエスは母に言われた、「婦人よ、あなたは、わたしと、

なんの係わりがありませんか。わたしの時は、まだきていません」。
Joh 2:5 母は僕たちに言った、「このかたが、あなたがたに言いつけることは、なんでもして下さい」。
Joh 2:6 そこには、ユダヤ人のきよめのならわしに従って、それぞれ2ないし3メートルペースはいる石の水がめが、六つ置いてあった。

Joh 2:7 イエスは彼らに「かめに水をいっぱい入れなさい」と言われたので、彼らは口のところまでいっぱいに入れた。

Joh 2:8 そこで彼らに言われた、「さあ、くんで、料理がしらのところに持って行きなさい」。すると、彼らは持って行った。

Joh 2:9 料理がしらは、ぶどう酒になった水をなめてみたが、それがどこからきたのかわらなかつたので、（水をくんだ僕たちは知っていた）花婿を呼んで

Joh 2:10 言った、「どんな人でも、初めによいぶどう酒を出して、酔いがまわったころにわるいのを出すものだ。それなのに、あなたはよいぶどう酒を今までとっておかれました」。

Joh 2:11 イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行い、その栄光を現された。そして弟子たちはイエスを信じた。

Joh 2:12 そののち、イエスは、その母、兄弟たち、弟子たちと一緒に、カペナウムに下って、幾日かそこにとどまられた。

Joh 2:13 さて、ユダヤ人の過越の祭が近づいたので、イエスはエルサレムに上られた。

Joh 2:14 そして牛、羊、はとを売る者や両替する者などが神殿の庭にすわり込んでいるのをごらんになって、

Joh 2:15 なわでむちを造り、羊も牛もみな神殿から追いだし、両替人の金を散らし、その台をひっくりかえし、

Joh 2:16 はとを売る人々には「これらのものを持って、ここから出て行け。わたしの父の家を商売の家とするな」と言われた。

Joh 2:17 弟子たちは、「あなたの家を思う熱心が、わたしを食いつくすであろう」と書いてあることを思い出した。

Joh 2:18 そこで、ユダヤ人はイエスに言った、「こんなことをするからには、どんなしるしをわたしたちに見せてくれますか」。

Joh 2:19 イエスは彼らに答えて言われた、「この神殿をこわしたら、わたしは三日のうちに、それを建てるであろう」。

Joh 2:20 そこで、ユダヤ人たちは言った、「この神殿を建てるのは、四十六年もかかっています。それなのに、あなたは三日のうちに、それを建てるのですか」。

Joh 2:21 イエスは自分のからだである神殿のことを言われたのである。

Joh 2:22 それで、イエスが死人の中からよみがえったとき、弟子たちはイエスがこう言われたことを思い出して、聖書とイエスのこの言葉とを信じた。

Joh 2:23 過越の祭の間、イエスがエルサレムに滞在しておられたとき、多くの人々は、その行われたしるしを見て、イエスの名を信じ

た。
Joh 2:24 しかしイエスご自身は、彼らに自分をお任せにならなかった。それは、すべての人を知っておられ、
Joh 2:25 また人について証言する者を、必要とされなかったからである。それは、ご自身人の心の中にあることを知っておられたからである。

(第三章)

Joh 3:1 パリサイ派の者のひとりで、その名をニコデモというユダヤ人の指導者があった。

Joh 3:2 この人が夜イエスのもとにきて言った、「先生、わたしたちはあなたが神からこられた教師であることを知っています。神がご一緒でないなら、あなたがなさっておられるようなしるしは、だれにもできません」。

Joh 3:3 イエスは答えて言われた、「よくよくあなたに言うておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない」。

Joh 3:4 ニコデモは言った、「人は年をとってから生れることが、どうしてできますか。もう一度、母の胎にはいつて生れることができますしうか」。

Joh 3:5 イエスは答えられた、「よくよくあなたに言うておく。だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない」。

Joh 3:6 肉体から生れる者は肉体であり、霊から生れる者は霊である。

Joh 3:7 あなたがたは新しく生れなければならないと、わたしが言ったからとて、不思議に思うには及ばない。

Joh 3:8 風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞くが、それがどこからきて、どこへ行くかは知らない。霊から生れる者もみな、それと同じである」。

Joh 3:9 ニコデモはイエスに答えて言った、「どうして、そんなことがあり得ましうか」。

Joh 3:10 イエスは彼に答えて言われた、「あなたはイスラエルの教師でありながら、これぐらいのことがわからないのか」。

Joh 3:11 よくよく言うておく。わたしたちは自分の知っていることを語り、また自分の見たことを証言しているのに、あなたがたはわたしたちの証言を受けいれない。

Joh 3:12 わたしが地上のことを語っているのに、あなたがたが信じないならば、天上のことを語った場合、どうしてそれを信じるだろうか。

Joh 3:13 天から下ってきた者、すなわち人の子のほかには、だれも天に上った者はない。

Joh 3:14 そして、ちょうどモーセが荒野でへびを上げたように、人の子もまた上げられなければならない。

Joh 3:15 それは彼を信じる者が、すべて永遠の命を得るためである」。

Joh 3:16 神はそのひとり子を賜わったほどに、世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。

Joh 3:17 神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、世が救われるためである。

Joh 3:18 彼を信じる者は、さばかれない。信じない者は、すでにさばかれている。

Joh 3:19 そのさばきというのは、光が世にきたのに、人々はそのおこないが悪いために、光よりもやみの方を愛したことである。

Joh 3:20 悪を行っている者はみな光を憎む。そして、そのおこないが明るみに出されるのを恐れて、光にこようとほしくない。

Joh 3:21 しかし、真理を行っている者は光に来る。その人のおこないの、神にあつてなされたということが、明らかにされるためである。

Joh 3:22 こののち、イエスは弟子たちとユダヤの地に行き、彼らと一緒にそこに滞在して、バプテスマを授けておられた。

Joh 3:23 ヨハネもサリムに近いアイノンで、バプテスマを授けていた。そこには水がたくさんあったからである。人々がぞくぞくとやってきてバプテスマを受けていた。

Joh 3:24 そのとき、ヨハネはまだ獄に入れられてはいなかった。

Joh 3:25ところが、ヨハネの弟子たちとひとりのユダヤ人との間に、きよめのことで争論が起った。

Joh 3:26 そこで彼らはヨハネのところに来て言った、「先生、ごらん下さい。ヨルダンの向こうであなたと一緒にいたことがあり、そして、あなたが証言をしておられたあのかたが、バプテスマを授けており、皆の者が、そのかたのところへ出かけています」。

Joh 3:27 ヨハネは答えて言った、「人は天から与えられなければ、何ものも受けることはできない」。

Joh 3:28 『わたしはキリストではなく、そのかたよりも先にかわされた者である』と言ったことを証言してくれるのは、あなたがた自身である。

Joh 3:29 花嫁をもつ者は花婿である。花婿の友人は立って彼の声を聞き、その声を聞いて大いに喜ぶ。こうして、この喜びはわたしに満ち足りている。

Joh 3:30 彼は大きくなり、わたしは小さくなっていくだろう。

(第四章)

Joh 4:1 イエスが、ヨハネよりも多く弟子をつくり、またバプテスマを授けておられるということを、パリサイ派の者たちが聞き、それを主が知られたとき、

Joh 4:2 しかし、イエスみずからが、バプテスマをお授けになった

のではなく、その弟子たちであった。

Joh 4:3 ユダヤを去って、またガリラヤへ行かれた。

Joh 4:4 しかし、イエスはサマリヤを通過しなければならなかった。

Joh 4:5 そこで、イエスはサマリヤのスカルという町においでになった。この町は、ヤコブがその子ヨセフに与えた土地の近くにあったが、

Joh 4:6 そこにヤコブの井戸があった。イエスは旅の疲れを覚えて、そのまま、この井戸のそばにすわっておられた。時は昼の十二時ごろであった。

Joh 4:7 ひとりのサマリヤの女が水をくみにきたので、イエスはこの女に、「水を飲ませて下さい」と言われた。

Joh 4:8 弟子たちは食物を買いに町に行っていたのである。

Joh 4:9 すると、サマリヤの女はイエスに言った、「あなたはユダヤ人でありながら、どうしてサマリヤの女のわたしに、飲ませてくれとおっしゃるのですか」。

これは、ユダヤ人はサマリヤ人と交際していなかったからである。

Joh 4:10 イエスは答えて言われた、「もしあなたが神の賜物のことを知り、また、『水を飲ませてくれ』と言った者が、だれであるか

知っていたならば、あなたの方から願い出て、その人から生ける水をもらったことであろう」。

Joh 4:11 女はイエスに言った、「ご主人よ、あなたは、くむ物をお持ちにならず、その上、井戸は深いのです。その生ける水を、どこから手に入れるのですか」。

Joh 4:12 あなたは、この井戸を下さったわたしたちの父ヤコブよりも、偉いかたなですか。ヤコブ自身も飲み、その子らも、その家畜も、この井戸から飲んだのですが」。

Joh 4:13 イエスは女に答えて言われた、「この水を飲む者はだれでも、またかわくであろう」。

Joh 4:14 しかし、わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう」。

Joh 4:15 女はイエスに言った、「ご主人よ、わたしがかわくことがなく、また、ここにくみにこなくてもよいように、その水をわたしに下さい」。

Joh 4:16 イエスは女に言われた、「あなたの夫を呼びに行つて、ここに連れてきなさい」。

Joh 4:17 女は答えて言った、「わたしには夫はありません」。イエスは女に言われた、「夫がないと言ったのは、もつともだ」。

Joh 4:18 あなたには五人の夫があったが、今のはあなたの夫ではない。あなたの言葉のとおりである」。

Joh 4:19 女はイエスに言った、「ご主人よ、わたしはあなたを預言者と見ます」。

Joh 4:20 わたしたちの先祖は、この山で礼拝をしたのですが、あなたがたは礼拝すべき場所は、エルサレムにあると言っています」。

Joh 4:21 イエスは女に言われた、「女よ、わたしの言うことを信じなさい。あなたがたが、この山でも、またエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。」

Joh 4:23 しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊とまことをもって父を礼拝する時が来る。そうだ、今きている。父は、このような礼拝をする者たちを求めておられるからである。

Joh 4:24 神は霊であるから、礼拝をする者も、霊とまことをもって礼拝すべきである。」

Joh 4:25 女はイエスに言った、「わたしは、キリストと呼ばれるメシヤがこられることを知っています。そのかたがこられたならば、わたしたちに、いつさいのことを知らせて下さるでしょう」。

Joh 4:26 イエスは女に言われた、「あなたと話をしているこのわたしである」。

Joh 4:27 そのとき、弟子たちが帰って来て、イエスがひとりの女と話しておられるのを見て不思議に思ったが、しかし、「何を求めておられますか」とも、「何を彼女と話しておられるのですか」とも、尋ねる者はひとりもなかった。

Joh 4:28 この女は水がめをそのままそこに置いて町に行き、人々に言った、

Joh 4:29 「わたしのしたことを何もかも、言いあてた人がいます。さあ、見にきてごらんなさい。もしかしたら、この人がキリストかも知れません」。

Joh 4:30 人々は町を出て、ぞくぞくとイエスのところへ行った。

Joh 4:31 その間に弟子たちはイエスに、「先生、召しあがってください」とすすめた。

Joh 4:32 ところが、イエスは言われた、「わたしには、あなたがたの知らない食物がある」。

Joh 4:33 そこで、弟子たちが互に言った、「だれかが、何か食べるものを持ってきてさしあげたのであろうか」。

Joh 4:34 イエスは彼らに言われた、「わたしの食物というのは、わたしをつかわされたかたのみこころを行い、そのみわざをなし遂げることである。」

Joh 4:35 あなたがたは、刈入れ時が来るまでには、まだ四か月あると、言っているではないか。しかし、わたしはあなたがたに言う。

Joh 4:36 目をあげて諸地域を見なさい。はや色づいて刈入れを待っている。Joh 4:36 刈る者は報酬を受けて、永遠の命に至る実を集めている。

まく者も刈る者も、共に喜ぶためである。

Joh 4:37 そこで、まく者と蒔る者が別人だ、という言葉は、ほんとうのことである。

Joh 4:38 わたしは、あなたがたをつかわしたのは、あなたがたに自分で労苦しなかつたものを刈りとらせるためである。ほかの人々が労苦し、あなたがたは、彼らの労苦の実を取っているのである。

Joh 4:39 さて、この町からきた多くのサマリヤ人は、「この人は、

わたしのしたことを何もかも言いあてた」と証言した女の言葉によつて、イエスを信じた。

Joh 4:40 そこで、サマリヤ人たちはイエスのもとにきて、自分たちのところに滞在していただきたいと願ったので、イエスはそこにふつか滞在された。

Joh 4:41 そしてなお多くの人々が、イエスの言葉を聞いて信じた。

Joh 4:42 彼らは女に言った、「わたしたちが信じるのは、もうあなたと話してくれたからではない。自分自身で親しく聞いて、この人こそまことに世の救主であることが、わかったからである」。

Joh 4:43 ふつかの後に、イエスはここを去ってガリラヤへ行かれた。Joh 4:44 イエスはみずから、「預言者は自分の故郷では敬われないものだ」と証言したのである。

Joh 4:45 ガリラヤに着かれると、ガリラヤの人たちはイエスを歓迎した。それは、彼らも祭に行っていたので、その祭の時、イエスがエルサレムでなされたことをごとく見ていたからである。

Joh 4:46 イエスは、またガリラヤのカナに行かれた。そこは、かつて水をぶどう酒にかえられた所である。ところが、病気をしているむすこを持つある役人がカペナウムにいた。

Joh 4:47 この人が、ユダヤからガリラヤにイエスのきておられることを聞き、みもとにきて、カペナウムに下つて、彼の子をなおしていただくたいと、願った。その子が死にかかっていたからである。

Joh 4:48 そこで、イエスは彼に言われた、「あなたがたは、しるしと奇跡とを見ない限り、決して信じないだろう」。

Joh 4:49 この役人はイエスに言った、「主よ、どうぞ、子供が死なないうちにきて下さい」。

Joh 4:50 イエスは彼に言われた、「お帰りなさい。あなたのむすこは生きています」。彼は自分に言われたイエスの言葉を信じて帰つて行った。

Joh 4:51 その下つて行く途中、下僕たちが彼に出会い、その子が助かったことを告げた。

Joh 4:52 そこで、彼は下僕たちに、そのなおりははじめた時刻を尋ねてみたら、「きのうの午後一時に熱が引きました」と答えた。

Joh 4:53 それは、イエスが「あなたのむすこは生きています」と言われたのと同じ時刻であったことを、この父は知つて、彼自身もその家族一同も信じた。

Joh 4:54 これは、イエスがユダヤからガリラヤにきてなされた第二のしるしである。

(第五章)

Joh 5:1 こののち、ユダヤ人の祭があつたので、イエスはエルサレムに上られた。

Joh 5:2 エルサレムにある羊の門のそばに、ヘブル語でベテスダと呼ばれる池があつた。そこには五つの廊があつた。

Joh 5:3 その廊の中には、病人、盲人、足なえ、やせ衰えた者などが、大ぜいからだを横たえていた。「彼らは水の動くのを待っていたのである。」

Joh 5:4 それは、時がくると、主の御使がこの池に降りてきて水を動かすことがあるが、水が動いた時まつ先にはいる者は、どんな病気にかかっているか、いやされたからである。」

Joh 5:5 さて、そこに三十八年のあいだ、病気に悩んでいる人があった。

Joh 5:6 イエスはその人が横になつて見、また長い間わずらっていたのを知つて、その人に「なおりたいのか」と言われた。

Joh 5:7 この病人はイエスに答えた、「ご主人よ、水が動く時に、わたしを池の中に入れてくれる人がいません。わたしがはいりかけると、ほかの人が先に降りて行くのです」。

Joh 5:8 イエスは彼に言われた、「起きて、あなたの床を取りあげ、そして歩きなさい」。

Joh 5:9 すると、この人はすぐにいやされ、床をとりあげて歩いて行った。その日は安息日であった。

Joh 5:10 そこでユダヤ人たちは、そのいやされた人に言った、「きようは安息日だ。床を取りあげるのは、許されていない」。

Joh 5:11 彼は答えた、「わたしをなおして下さったかたが、床を取りあげて歩くと、わたしに言われました」。

Joh 5:12 彼らは尋ねた、「取りあげて歩けと言った人は、だれか」。

Joh 5:13 しかし、このいやされた人は、それがだれであるか知らなかった。群衆がその場にいたので、イエスはそつと出て行かれたからである。

Joh 5:15 彼は出て行って、自分をいやしたのはイエスであったと、ユダヤ人たちに告げた。

Joh 5:16 そのためユダヤ人たちは、安息日にこのようなことをしたと言つて、イエスを弾圧するようになった。

Joh 5:17 そこで、イエスは彼らに答えられた、「わたしの父は今に至るまで働いておられる。わたしも働くのである」。

Joh 5:18 このためにユダヤ人たちは、ますますイエスを殺そうと計るようになった。それは、イエスが安息日を解かれたばかりではなく、神を自分の父と呼んで、自分を神と等しいものとされたからである。

Joh 5:19 さて、イエスは彼らに答えて言われた、「よくよくあなたがたに言っておく。子は父のなさることを見てする以外に、自分からは何事もすることができない。父のなさることであればすべて、子もそのとおりにするのである。」

Joh 5:20 なぜなら、父は子を愛して、みずからなさることは、すべて子にお示しになるからである。そして、それよりもなお大きなわざを、お示しになるであろう。あなたがたが、それによつて不思議に思うためである。

Joh 5:21 すなわち、父が死人を起して命をお与えになるように、子もまた、そのころにかなう人々に命を与えるであろう。
Joh 5:22 父はだれをもさばかない。さばきのことはすべて、子にゆだねられたからである。

Joh 5:23 それは、すべての人が父を敬うと同様に、子を敬うためである。子を敬わない者は、子をつかわされた父をも敬わない。

Joh 5:24 よくよくあなたがたに言っておく。わたしの言葉を聞いて、わたしをつかわされたかたを信じる者は、永遠の命を受け、またさばかれることがなく、死から命に移っているのである。

Joh 5:25 よくよくあなたがたに言っておく。死んだ人たちが、神の子の声を聞く時が来る。今すでにきている。そして聞く人は生きるであろう。

Joh 5:26 それは、父がご自分のうちに生命をお持ちになつていると同様に、子にもまた、自分のうちに生命を持つことをお許しになつたからである。

Joh 5:27 そして子は人の子であるから、子にさばきを行う権威をお与えになつた。

Joh 5:30 わたしは、自分からは何事もすることができない。ただ聞くままにさばくのである。そして、わたしのこのさばきは正しい。それは、わたし自身の考えでするのでなく、わたしをつかわされたかたの、み旨を求めているからである。

Joh 5:31 もし、わたしが自分自身について証言をするならば、わたしの証言はほんとうではない。

Joh 5:32 わたしについて証言をするかたはほかにあり、そして、その人がする証言がほんとうであることを、わたしは知っている。

Joh 5:33 あなたがたはヨハネのもとへ人をつかわしたが、そのとき彼は真理について証言をした。

Joh 5:34 わたしは人から証言を受けないが、このことを言うのは、あなたがたが救われるためである。

Joh 5:35 ヨハネは燃えて輝くあかりであつた。あなたがたは、しばらくの間その光を喜び楽しむもうとした。

Joh 5:36 しかし、わたしには、ヨハネの証言よりも、もっと力ある証言がある。父がわたしに成就させようとしてお与えになつたわざ、すなわち、今わたしがしているこのわざが、父のわたしをつかわされたことを証言している。

Joh 5:37 また、わたしをつかわされた父も、ご自分でわたしについて証言をされた。あなたがたは、まだそのみ声を聞いたこともなく、そのみ姿を見たこともない。

Joh 5:38 また、神がつかわされた者を信じないから、神の御言はあなたがたのうちにとどまっていない。

Joh 5:39 あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思つて調べているが、この聖書は、わたしについて証言をするものである。

Joh 5:40 しかも、あなたがたは、命を得るためにわたしのもとにこ

ようともしない。

Joh 5:41 わたしは人からの栄光を受けることはしない。

Joh 5:42 しかし、あなたがたのうちには神を愛する愛がないことを知っている。

Joh 5:43 わたしは父の名によってきたのに、あなたがたはわたしを受けいれない。もし、ほかの人が彼自身の名によって来るならば、その人を受けいれるのであろう。

Joh 5:44 互に栄光を受けているあなたがたが、どうして信じることができようか。そしてあなた方は、ただひとりの神からの栄光を求めないのである。

Joh 5:45 わたしがあなたがたのことを父に訴えると、考えてはいけない。あなたがたを訴える者は、あなたがたが頼みとしているモーセその人である。

Joh 5:46 もし、あなたがたがモーセを信じたならば、わたしをも信じたであらう。モーセは、わたしについて書いたのである。

Joh 5:47 しかし、モーセの書いたものを信じないならば、どうしてわたしの言葉を信じるだろうか」。

(第六章)

Joh 6:1 そののち、イエスはガリラヤの海、すなわち、テベリヤ湖の向こう岸へ渡られた。

Joh 6:2 すると、大ぜいの群衆がイエスについてきた。病人たちになさっていたしるしを見たからである。

Joh 6:3 イエスは山に登って、弟子たちと一緒にそこで座につかれた。

Joh 6:4 時に、ユダヤ人の祭である過越が間近になっていた。

Joh 6:5 イエスは目をあげ、大ぜいの群衆が自分の方に集まって来るのを見て、ピリポに言われた、「どこからパンを買ってきて、この人々に食べさせようか」。

Joh 6:6 これはピリポをためそうとして言われたのであって、自分ではしようとすることを、よくご承知であった。

Joh 6:7 すると、ピリポはイエスに答えた、「二百デナリのパンがあっても、めいめいが少しずついたたくにも足りませんまい」。

Joh 6:8 弟子のひとり、シモン・ペテロの兄弟アンデレがイエスに言った、

Joh 6:9 「ここに、大麦のパン五つと、さかな二ひきとを持っていく子供がいます。しかし、こんなに大ぜいの人では、それが何になりましょう」。

Joh 6:10 イエスは「人々をすわらせなさい」と言われた。その場所には草が多かった。そこにすわった男の数は五人ほどであった。

Joh 6:11 そこで、イエスはパンを取り、感謝してから、すわっている人々に分け与え、また、さかなをも同様にして、彼らの望むだけ分け与えられた。

Joh 6:12 人々がじゅうぶんに食べたのち、イエスは弟子たちに言われた、「少しでもむだにならないように、パン片のあまりを集めなさい」。

Joh 6:13 そこで彼らが集めると、五つの大麦のパンを食べて残ったパン片は、十二の背負いかごにいっぱいになった。

Joh 6:14 人々はイエスのなさったこのしるしを見て、「ほんとうに、この人こそ世にきたるべき預言者である」と言った。

Joh 6:15 イエスは人々がきて、自分をとらえて王にしようとしていると知って、ただひとり、また山に退かれた。

Joh 6:16 夕方になったとき、弟子たちは海べに下り、

Joh 6:17 舟に乗って海を渡り、向こう岸のカペナウムに行った。すでに暗くなっていたのに、イエスはまだ彼らのところにおいでにならなかった。

Joh 6:18 その上、強い風が吹いてきて、海は荒れていた。

Joh 6:19 二十五ないし三十スタディオンこぎ出したとき、イエスが海の上を歩いて舟に近づいてこられるのを見て、彼らは恐れれた。

Joh 6:20 すると、イエスは彼らに言われた、「わたしだ、恐れることはない」。

Joh 6:21 そこで、彼らは喜んでイエスを舟に迎えようとした。すると舟は、すぐ、彼らが行こうとしていた地に着いた。

Joh 6:22 その翌日、海の向こう岸に立っていた群衆は、そこに小舟が一そうしかなく、またイエスは弟子たちと一緒に小舟にお乗りにならず、ただ弟子たちだけが船出したのを見た。

Joh 6:23 しかし、数そうの小舟がテベリヤからきて、主が感謝されたのちパンを人々に食べさせた場所に近づいた。

Joh 6:24 群衆は、イエスも弟子たちもそこにいないと知って、それらの小舟に乗り、イエスをたずねてカペナウムに行った。

Joh 6:25 そして、海の向こう岸でイエスに出会ったので言った、「先生、いつ、ここにおいでになったのですか」。

Joh 6:26 イエスは答えて言われた、「よくよくあなたがたに言っておく。あなたがたがわたしを尋ねてきているのは、しるしを見たためではなく、パンを食べて満腹したからである」。

Joh 6:27 朽ちる食物のためではなく、永遠の命に至る朽ちない食物のために働くがよい。これは人の子があなたがたに与えるものである。父なる神は、人の子にそれをゆだねられたのである」。

Joh 6:30 彼らはイエスに言った、「わたしたちが見てあなたを信じるために、どんなしるしを行って下さいますか。どんなことをして下さいますか」。

Joh 6:31 わたしたちの先祖は荒野でマナを食べました。それは『天よりのパンを彼らに与えて食べさせた』と書いてあるとおりです」。

Joh 6:32 そこでイエスは彼らに言われた、「よくよく言っておく。天からのパンをあなたがたに与えたのは、モーセではない。天からのまことのパンをあなたがたに与えるのは、わたしの父なのである」。

Joh 6:33 神のパンは、天から下ってきて、この世に命を与えるものである」。

Joh 6:34 彼らはイエスに言った、「主よ、そのパンをいつもわたしたちに下さい」。

Joh 6:35 イエスは彼らに言われた、「わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない」。

Joh 6:41 ユダヤ人らは、イエスが「わたしは天から下ってきたパンである」と言われたので、イエスについてつぶやき始めた。

Joh 6:42 そして言った、「これはヨセフの子イエスではないか。わたしたちはその父母を知っているではないか。わたしは天から下ってきたと、どうして今いうのか」。

Joh 6:43 イエスは彼らに答えて言われた、「互にぶつぶついいけない」。

Joh 6:47 よくよくあなたがたに言うしておく。信じる者には永遠の命がある。

Joh 6:48 わたしは命のパンである。

Joh 6:49 あなたがたの先祖は荒野でマナを食べたが、死んでしまった。

Joh 6:50 しかし、天から下ってきたパンを食べる人は、決して死ぬことはない。

Joh 6:59 これらのことは、イエスがカペナウムの会堂で教えておられたときに言われたものである。

Joh 6:60 弟子たちのうちの多くの者は、これを聞いて言った、「これは、ひどい言葉だ。だれがそんなことを聞いておられようか」。

Joh 6:61 しかしイエスは、弟子たちがそのことではぶつぶついつているのを見破って、彼らに言われた、「このことがあなたがたのつまりきになるのか」。

Joh 6:62 それでは、もし人の子が前にいた所に上るのを見たら、どうなるのか。

Joh 6:63 人を生かすものは霊であって、肉体はなんの役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である。

Joh 6:64 しかし、あなたがたの中には信じない者がいる」。イエスは、初めから、だれが信じないか、また、だれが彼を裏切るかを知っておられたのである。

Joh 6:65 そしてイエスは言われた、「それだから、父が与えて下さった者でなければ、わたしに来ることはできないと、言ったのである」。

Joh 6:66 それ以来、多くの弟子たちは去って行って、もはやイエスと行動を共にしなかった。

Joh 6:67 そこでイエスは十二弟子に言われた、「あなたがたも去る

うとするのか」。
Joh 6:68 シモン・ペテロが答えた、「主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言をもっているのはあなたです。
Joh 6:69 わたしたちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています」。
Joh 6:70 イエスは彼らに答えられた、「あなたがた十二人を選んだのは、わたしではなかったか。そして、あなたがたの中からひとりが悪魔となっている」。
Joh 6:71 これは、イスカリオテ人シモンの子ユダをさして言われたのである。この者がイエスを引き渡すことになった。このユダは、十二人のひとりである。

(第七章)

Joh 7:1 そののち、イエスはガリラヤの中を歩んでいた。ユダヤ人たちが自分を殺そうとしていたので、ユダヤの中を歩もうとはされなかった。

Joh 7:2 時に、ユダヤ人の仮庵の祭が近づいていた。

Joh 7:3 そこで、イエスの弟たちがイエスに言った、「あなたがしておられるわざを弟子たちにも見せるために、ここを去りユダヤに行つてはいかがです」。

Joh 7:4 自分を公けにあらわそうと思つている人で、隠れて仕事を分をはつきりと世にあらわしなさい」。

Joh 7:5 こう言ったのは、弟たちもイエスを信じていなかったからである。

Joh 7:6 そこでイエスは彼らに言われた、「わたしの時はまだきていない。しかし、あなたがたの時はいつも備わっている」。

Joh 7:7 世はあなたがたを憎み得ないが、わたしを憎んでいる。わたしが世のおこないの悪いことを、証言しているからである。

Joh 7:8 あなたがたこそ祭に行きなさい。わたしはこの祭には行かない。わたしの時はまだ満ちていないから」。

Joh 7:9 彼らにこう言つて、イエスはガリラヤにとどまつておられた。

Joh 7:10 しかし、兄弟たちが祭に行つたあとで、イエスも人目にたためように、ひそかに行かれた。

Joh 7:11 ユダヤ人らは祭の時に、「あの人はどこにいるのか」と言つて、イエスを捜していた。

Joh 7:12 群衆の中に、イエスについていろいろとうわさが立つた。ある人々は、「あれはよい人だ」と言い、他の人々は、「いや、あれは群衆を惑わしている」と言つた。

Joh 7:13 しかし、ユダヤ人らを恐れて、イエスのことを公然と口にする者はいなかった。

Joh 7:14 祭も半ばになつてから、イエスは神殿に上つて教え始めら

れた。

Joh 7:15 すると、ユダヤ人たちは驚いて言った、「この人は学問をしたこともないのに、どうして律法の知識をもっているのだらう」

Joh 7:16 そこでイエスは彼らに答えて言われた、「わたしの教はわたし自身の教ではなく、わたしをつかわされたかたの教である。」

Joh 7:17 神のみこころを行おうと思う者であれば、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであらう。

Joh 7:18 自分から出たことを語る者は、自分の栄光を求めるが、自分をつかわされたかたの栄光を求める者は真実であって、その人の内には偽りが無い。

Joh 7:19 モーセはあなたがたに律法を与えたではないか。それなのに、あなたがたのうちには、その律法を行う者がひとりもない。あなたがたは、なぜわたしを殺そうと思っているのか」。

Joh 7:20 群衆は答えた、「あなたは悪霊に取りつかれている。だれがあなたを殺そうと思っているものか」。

Joh 7:21 イエスは彼らに答えて言われた、「わたしが一つのわざをしたところ、あなたがたは皆それを見て驚いている。」

Joh 7:22 モーセはあなたがたに割礼を命じたので、（これは、実は、モーセから始まったのではなく、先祖たちから始まったものである）あなたがたは安息日にも人に割礼を施している。

Joh 7:23 もし、モーセの律法が破られないように、安息日であつても割礼を受けるのなら、安息日に一人の人間全体を丈夫にしてやつたからといって、どうして、そんなにおこるのか。

Joh 7:24 うわべで人をさばかないで、正しいさばきをするがよい」。

Joh 7:25 さて、エルサレムのある人たちが言った、「この人は人々が殺そうと思っている者ではないか。」

Joh 7:26 見よ、彼は公然と語っているのに、人々はこれに対して何も言わない。支配者たちは、この人がキリストであることを、ほんとうに考えたのであるまいね。

Joh 7:27 わたしたちはこの人がどこからきたのか知っている。しかし、キリストが現れる時には、どこから来るのか知っている者は、ひとりもない」。

Joh 7:28 イエスは神殿の内で教えながら、叫んで言われた、「あなたがたは、わたしを知っており、また、わたしがどこからきたかも知っている。しかし、わたしは自分からきたのではない。わたしをつかわされたかたは真実であるが、あなたがたは、そのかたを知らない。」

Joh 7:29 わたしは、そのかたを知っている。わたしはそのかたのもとからきた者で、そのかたがわたしをつかわされたのである」。

Joh 7:30 そこで人々はイエスを捕えようと計ったが、だれひとり手をかける者はなかった。イエスの時が、まだきていなかったからである。

Joh 7:31 しかし、群衆の中の多くの者が、イエスを信じて言った、

「キリストがきても、この人が行ったよりも多くのしるしを行うだろうか」。

Joh 7:32 群衆がイエスについてぶつぶつ言っているのを、パリサイ派の者たちは耳にした。そこで、祭司長たちやパリサイ派の者たちは、イエスを捕えようとして、下役どもをつかわした。

Joh 7:33 イエスは言われた、「今しばらくの間、わたしはあなたがたと一緒にいて、それから、わたしをおつかわしになったかたのみもとに行く。」

Joh 7:34 あなたがたはわたしを捜すであろうが、見つけることはできない。そしてわたしのいる所に、あなたがたは来ることができない。」

Joh 7:35 そこでユダヤ人たちは互に言った、「わたしたちが見つけることができないというのは、どこへ行こうとしているのだろう。ギリシヤ人の中に離散している人たちのところにも行って、ギリシヤ人を教えようというのだろうか。」

Joh 7:36 また、『わたしを捜すが、見つかることはできない。そしてわたしのいる所には来ることができないだろう』と言ったその言葉は、どういう意味だろう」。

Joh 7:37 祭の終りの大きな日に、イエスは立って、叫んで言われた、「だれでもかわく者は、わたしのところにきて飲むがよい。」

Joh 7:40 群衆のある者がこれらの言葉を聞いて、「このかたは、ほんとうに、あの預言者である」と言い、

Joh 7:41 ほかの人たちは「このかたはキリストである」と言い、また、ある人々は、「キリストはまさか、ガリラヤからは出てこないだろう。」

Joh 7:42 キリストは、ダビデの子孫から、またダビデのいたベツレヘムの村から出ると、聖書に書いてあるではないか」と言った。

Joh 7:43 こうして、群衆の間にイエスのことで分争が生じた。

Joh 7:44 彼らのうちのある人々は、イエスを捕えようと思ったが、だれひとり手をかける者はなかった。

Joh 7:45 さて、下役どもが祭司長たちやパリサイ派の者たちのところに帰ってきたので、彼らはその下役どもに言った、「なぜ、あの人を連れてこなかったのか」。

Joh 7:46 下役どもは答えた、「この人の語るように語った者は、これまでにもありませんでした」。

Joh 7:47 パリサイ派の者たちが彼らに答えた、「あなたがたまでが、だまされているのではないか。」

Joh 7:48 役人たちやパリサイ派の者たちの中で、ひとりでも彼を信じた者があっただろうか。

Joh 7:49 律法をわきまえないこの群衆は、のろわれている」。

Joh 7:50 彼らの中のひとりで、以前にイエスに会いに来たことのあるニコデモが、彼らに言った、

Joh 7:51 わたしたちの律法によれば、まずその人の言い分を聞き、

その人のしたことを知った上でなければ、さばくことをしないのではないか」。

Joh 7:52 彼らは答えて言った、「あなたもガリラヤ出ななのか。よく調べてみなさい、ガリラヤからは預言者が出るものではないことが、わかるだろう」。

(第八章)

1節からの（罪のある女の赦し）の話は、本来のヨハネ福音書に入っていないかったと考えられる。

Joh 8:12 イエスは、また彼らに語ってこう言われた、「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう」。

Joh 8:13 するとパリサイ派の者たちがイエスに言った、「あなたは、自分のことを証言している。あなたの証言は真実ではない」。

Joh 8:14 イエスは彼らに答えて言われた、「たとい、わたしが自分のことを証言しても、わたしの証言は真実である。それは、わたしがどこからきたのか、また、どこへ行くのかを知っているからである。しかし、あなたがたは、わたしがどこからきて、どこへ行くのかを知らない」。

Joh 8:15 あなたがたは肉体によって人を判断するが、わたしはだれも判断しない。

Joh 8:16 しかし、もしわたしが判断するとすれば、わたしの判断は正しい。なぜなら、わたしはひとりではなく、わたしをつかわされたかたが、わたしと一緒にだからである。

Joh 8:17 あなたがたの律法には、ふたりによる証言は真実だと、書いてある。

Joh 8:18 わたし自身のことを証言するのは、わたしであるし、わたしをつかわされた父も、わたしのことを証言して下さるのである」。

Joh 8:19 すると、彼らはイエスに言った、「あなたの父はどこにいるのか」。イエスは答えられた、「あなたがたは、わたしをもわたしの父をも知っていない。もし、あなたがたがわたしを知っていたなら、わたしの父をも知っていたであろう」。

Joh 8:20 イエスが神殿の内で教えていた時、これらの言葉を宝物殿のそばで語られたのであるが、イエスの時がまだきていなかったのので、だれも捕える者がなかった。

Joh 8:21 さて、また彼らに言われた、「わたしは去って行く。あなたがたはわたしを捜し求めるであろう。そして自分の罪のうちに死ぬであろう。わたしの行く所には、あなたがたは来ることができない」。

Joh 8:22 そこでユダヤ人たちは言った、「わたしの行く所に、あなたがたは来ることができないと、言ったのは、あるいは自殺でもしようとするつもりか」。

Joh 8:23 イエスは彼らに言われた、「あなたがたは下から出た者だが、わたしは上からきた者である。あなたがたはこの世の者であるが、わたしはこの世の者ではない。」

Joh 8:24 だからわたしは、あなたがたは自分の罪のうちに死ぬであろうと、言ったのである。もしわたしがそういう者であることをあなたがたが信じなければ、罪のうちに死ぬことになるからである」。

Joh 8:25 そこで彼らはイエスに言った、「あなたは、いったい、どういうかたですか」。イエスは彼らに言われた、「わたしがどういう者であるかは、どうしてあなたがたに言う必要があるのか。」

Joh 8:26 あなたがたについて、わたしの言うべきこと、判断するべきことが、たくさんある。しかし、わたしをつかわされたかたは真実なかたである。わたしは、そのかたから聞いたままを世にむかつて語るのである」。

Joh 8:27 彼らは、イエスが父について話しておられたことを悟らなかった。

Joh 8:28 そこでイエスは言われた、「あなたがたが人の子を上げてしまつた後はじめて、わたしがそういう者であること、また、わたしは自分からは何もせず、ただ父が教えて下さつたままを話していたことが、わかってくるであろう。」

Joh 8:29 わたしをつかわされたかたは、わたしと一緒におられる。わたしは、いつも神のみこころにかなうことをしているから、わたしをひとり置きざりになさることはない」。

Joh 8:30 これらのことを語られたところ、多くの人々がイエスを信じた。

Joh 8:31 イエスは自分を信じたユダヤ人たちに言われた、「もしわたしの言葉のうちにとどまつておるなら、あなたがたは、ほんとうにわたしの弟子なのである。」

Joh 8:32 また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」。

Joh 8:33 そこで、彼らはイエスに言った、「わたしたちはアブラハムの子孫であつて、人の奴隷になつたことなどは、一度もない。どうして、あなたがたに自由を得させるであろうと、言われるのか」。

Joh 8:34 イエスは彼らに答えられた、「よくよくあなたがたに言つておく。すべて罪を犯す者は罪の奴隷である。」

Joh 8:35 そして、奴隷はいつまでも家にいる者ではない。しかし、子はいつまでもいる。

Joh 8:36 だから、もし子があなたがたに自由を得させるならば、あなたがたは、ほんとうに自由な者となるのである。

Joh 8:37 わたしは、あなたがたがアブラハムの子孫であることを知つている。それなのに、あなたがたはわたしを殺そうとしている。

わたしの言葉が、あなたがたの中で進んで行かないからである。

Joh 8:38 わたしはわたしの父のもとで見たことを語っているが、あなたがたは自分の父から聞いたことを行っている」。

Joh 8:39 彼らはイエスに答えて言った、「わたしたちの父はアブラ

ハムである」。イエスは彼らに言われた、「もしアブラハムの子であるなら、アブラハムのわざをするがよい。

Joh 8:40 ところが今、神から聞いた真理をあなたがたに語ってきたこのわたしを、殺そうとしている。そんなことをアブラハムはしなかった。

Joh 8:41 あなたがたは、あなたがたの父のわざを行っているのである」。彼らは言った、「わたしたちは、不品行の結果うまれた者ではない。わたしたちにはひとりの父がある。それは神である」。

Joh 8:42 イエスは彼らに言われた、「神があなたがたの父であるならば、あなたがたはわたしを愛するはずである。わたしは神から出た者、また神からきている者であるからだ。わたしは自分からきたのではなく、神からつかわされたのである。

Joh 8:43 どうしてあなたがたは、わたしの話すことがわからないのか。あなたがたが、わたしの言葉を悟ることができないからである。

Joh 8:44 あなたがたは悪魔という父親から出てきた者であって、その父の欲望どおりを行おうと思っている。彼は初めから、人殺しであって、真理に立つ者ではない。彼のうちには真理がないからである。彼が偽りを言うとき、自分自身のものの中から言っている。彼は嘘つきであり、彼の父も嘘つきであるからだ。

Joh 8:45 しかし、わたしが真理を語っているので、あなたがたはわたしを信じようとしなさい。

Joh 8:46 あなたがたのうち、だれがわたしに罪があると責めうるのか。わたしは真理を語っているのに、なぜあなたがたは、わたしを信じないのか。

Joh 8:47 神からきた者は神の言葉に聞き従うが、あなたがたが聞き従わないのは、神からきた者でないからである」。

Joh 8:48 ユダヤ人たちはイエスに答えて言った、「あなたはサマリヤ人で、悪霊に取りつかれていると、わたしたちが言うのは、当然ではないか」。

Joh 8:49 イエスは答えられた、「わたしは、悪霊に取りつかれているのではなくて、わたしの父を敬っているのだが、あなたがたはわたしを敬わない」。

Joh 8:50 わたしは自分の栄光を求めてはいない。それを求めるかたが別にある。そのかたは、また判断するかたである。

Joh 8:52 ユダヤ人たちが言った、「あなたが悪霊に取りつかれていることが、今わかった。アブラハムは死に、預言者たちも死んでいる。それなのに、あなたは、わたしの言葉を守る者はいつまでも死を味わうことがないであろうと、言われる」。

Joh 8:53 あなたは、わたしたちの父アブラハムより偉いのだろうか。彼も死に、預言者たちも死んだではないか。あなたは、いったい、自分を何様だと思っているのか」。

Joh 8:54 イエスは答えられた、「わたしがもし自分に栄光を帰するなら、わたしの栄光は、むなしいものである。わたしに栄光を与え

るかたは、わたしの父であって、あなたがたが自分の神だと言っているのは、そのかたのことである。

Joh 8:55 あなたがたはその神を知っていないが、わたしは知っている。もしわたしが神を知らないと言うならば、あなたがたと同じような偽り者であろう。しかし、わたしはそのかたを知り、その御言を守っている。

Joh 8:56 あなたがたの父アブラハムは、わたしのこの日を見ようとして楽しんでいた。そしてそれを見て喜んだ」。

Joh 8:57 そこでユダヤ人たちはイエスに言った、「あなたはまだ五十にもならないのに、アブラハムを見たのか」。

Joh 8:58 イエスは彼らに言われた、「よくよくあなたがたに言っておく。アブラハムの生れる前からわたしは、いるのである」。

Joh 8:59 そこで彼らは石をとって、イエスに投げつけようとした。しかし、イエスは身を隠して、神殿から出て行かれた。

(第九章)

Joh 9:1 イエスが道をとおっておられるとき、生れつきの盲人を見られた。

Joh 9:2 弟子たちはイエスに尋ねて言った、「先生、この人が生れつき盲人なのは、だれが罪を犯したためですか。本人ですか、それともその両親ですか」。

Joh 9:3 イエスは答えられた、「本人が罪を犯したのでもなく、また、その両親が犯したのでもない。ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである」。

Joh 9:4 わたしたちは、わたしをつかさねられたかたのわざを、昼の間にしなければならぬ。夜が来る。すると、だれも働けなくなる。

Joh 9:5 わたしは、この世にいる間は、世の光である」。

Joh 9:6 イエスはそう言って、地につばきををし、そのつばきで、粘土をつくり、その粘土を盲人の目に塗って言われた、

Joh 9:7 「シロアム(つかわされた者、の意)の池に行つて洗いなさい」。そこで彼は行って洗った。そして見えるようになって、帰って行った。

Joh 9:8 近所の人々や、彼がもと、こじきであったのを見知っていた人々が言った、「この人は、すわってこじきをしていた者ではないか」。

Joh 9:9 ある人々は「その人だ」と言い、他の人々は「いや、ただあの人に似ているだけだ」と言った。しかし、本人は「わたしがそれだ」と言った。

Joh 9:10 そこで人々は彼に言った、「では、おまえの目はどうしてあいたのか」。

Joh 9:11 彼は答えた、「イエスというかたが、粘土をつくって、わたしの目に塗り、『シロアムに行つて洗え』と言われました。それで、行って洗うと、見えるようになりました」。

Joh 9:12 人々は彼に言った、「その人はどこにいるのか」。彼は「知りません」と答えた。

Joh 9:13 人々は、もと盲人であったこの人を、パリサイ派の者たちのところにつれて行った。

Joh 9:14 イエスが粘土をつくって彼の目をあけたのは、安息日であった。

Joh 9:15 パリサイ派の者たちもまた、「どうして見えるようになったのか」と彼に尋ねた。彼は答えた、「あのかたがわたしの目に粘土を塗り、わたしがそれを洗い、そして見えるようになりました」。

Joh 9:16 そこで、あるパリサイ派の者たちが言った、「その人は神からきた人ではない。安息日を守っていないのだから」。しかし、ほかの人々は言った、「罪のある人が、どうしてそのようなしるしを行うことができようか」。そして彼らの間に分争が生じた。

Joh 9:17 そこで彼らは、もう一度この盲人に聞いた、「おまえの目をあけてくれたその人を、どう思うか」。「預言者だと思います」と彼は言った。

Joh 9:18 ユダヤ人たちは、彼がもと盲人であったが見えるようになったことを、まだ信じなかった。ついに彼らは、目が見えるようになったこの人の両親を呼んで、

Joh 9:19 尋ねて言った、「これが、生れつき盲人であったと、おまえたちの言っているむすこか。それではどうして、いま目が見えるのか」。

Joh 9:20 両親は答えて言った、「これがわたしどものおむすこであること、また生れつき盲人であったことは存じています」。

Joh 9:21 しかし、どうしていま見えるようになったのか、それは知りません。また、だれがその目をあけて下さったのかも知りません。あれに聞いて下さい。あれはもうおとなですから、自分のことは自分で話せるでしょう」。

Joh 9:22 両親はユダヤ人たちを恐れていたもので、こう答えたのである。それは、もしイエスをキリストと告白する者があれば、会堂追放者とすることを、ユダヤ人たちが既に決めていたからである。

Joh 9:23 彼の両親が「おとなですから、あれに聞いて下さい」と言ったのは、そのためであった。

Joh 9:24 そこで彼らは、盲人であった人をもう一度呼んで言った、「神に栄光を帰するがよい。あの人が罪人であることは、わたしたちにはわかってる」。

Joh 9:25 すると彼は言った、「あのかたが罪人であるかどうか、わたしは知りません。ただ一つのことだけ知っています。わたしは盲であったが、今は見えるということですよ」。

Joh 9:26 そこで彼らは言った、「その人はおまえに何をしたのか。どんなにしておまえの目をあけたのか」。

Joh 9:27 彼は答えた、「そのことはもう話してあげたのに、聞いてくれませんでした。なぜまた聞くこうとするのですか。あなたがたも、あの人の弟子になりたいのですか」。

Joh 9:28 そこで彼らは彼をののしって言った、「おまえはあれの弟子だが、わたしたちはモーセの弟子だ。」
Joh 9:29 モーセに神が語られたということは知っている。だが、あの人がどこからきた者か、わたしたちは知らぬ」。
Joh 9:30 そこで彼が答えて言った、「わたしの目をあけて下さったのに、そのかたがどこからきたか、ご存じないとは、不思議千万です。」

Joh 9:31 わたしたちはこのことを知っています。神は罪人の言うこととはお聞きいれにありませんが、神を敬い、そのみこころを行う人の言うことは、聞きいれて下さいます。

Joh 9:32 生れつき盲であった者の目をあけた人があるということとは、世界が始まって以来、聞いたことがありません。

Joh 9:33 もしあのかたが神からきた人でなかったら、何一つできなかったはずです」。

Joh 9:34 これを聞いて彼らは言った、「おまえは全く罪の中に生れていながら、わたしたちを教えようとするのか」。そして彼を外へ追い出した。

Joh 9:35 イエスは、その人が外へ追い出されたことを聞かれた。そして彼に会って言われた、「あなたは人の子を信じるか」。

Joh 9:36 彼は答えて言った、「ご主人よ、私がおのれを信じて、それはどなたですか。」。

Joh 9:37 イエスは彼に言われた、「あなたは、もうその人に会っている。今あなたと話しているのが、その人である」。

Joh 9:38 すると彼は、「ご主人よ、信じます」と言って、イエスを拝した。

Joh 9:39 そこでイエスは言われた、「わたしがこの世にきたのは、さばくためである。すなわち、見えない人たちが見えるようになり、見える人たちが見えないようになるためである」。

Joh 9:40 そこにイエスと一緒にいたあるパリサイ派の者たちが、それを聞いてイエスに言った、「それでは、わたしたちも盲人なのでしようか」。

Joh 9:41 イエスは彼らに言われた、「もしあなたがたが盲人であったなら、罪はなかったであろう。しかし、今あなたがたが『見える』と言いつ張るところに、あなたがたの罪がある。」

(第十章)

Joh 10:1 よくよくあなたがたに言うておく。羊の中庭にはいるのに、門からでなく、ほかの所からのりこえて来る者は、盗人であり、強盗である。

Joh 10:2 門からはいる者は、羊の羊飼である。

Joh 10:3 門番は彼のために門を開き、羊は彼の声を聞く。そして彼は自分の羊の名をよんで連れ出す。

Joh 10:4 自分の羊をみな出してしまおうと、彼は羊の先頭に立って行

く。羊はその声を知っているのです、彼について行くのである。

Joh 10:5 ほかの人には、ついて行かないで逃げ去る。その人の声を知らないからである」。

Joh 10:6 イエスは彼らにこの比喻を話されたが、彼らは自分たちにお話しになっっているのが何のことだか、わからなかった。

Joh 10:7 そこで、イエスはまた言われた、「よくよくあなたがたに言っておく。わたしは羊の門である。」

Joh 10:8 わたしよりも前にきた人は、みな盗人であり、強盗である。羊は彼らに聞き従わなかった。

Joh 10:9 わたしは門である。わたしをとおってはいる者は救われ、また出入りし、牧草にありつくであろう。

Joh 10:10 盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかならない。わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである。

Joh 10:11 わたしはよい羊飼である。よい羊飼は、羊のために命を捨てる。

Joh 10:12 羊飼ではなく、羊が自分のものでもない雇人は、おおかみが来るのを見ると、羊をすてて逃げ去る。そして、おおかみは羊を奪い、また追い散らす。

Joh 10:13 彼は雇人であって、羊のことを心にかけていないからである。

Joh 10:14 わたしはよい羊飼であって、わたしの羊を知り、わたしの羊はまた、わたしを知っている。

Joh 10:15 それはちようど、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである。そして、わたしは羊のために命を捨てるのである。

Joh 10:16 わたしにはまた、この中庭にいない他の羊がある。わたしは彼らをも導かねばならない。彼らも、わたしの声に聞き従うであらう。そして、ついに一つの群れ、ひとりの羊飼となるであらう。

Joh 10:17 父は、わたしが自分の命を捨てるから、わたしを愛して下さるのである。命を捨てるのは、それを再び得るためである。

Joh 10:18 だれかが、わたしからそれを取り去るのではない。わたしが、自分からそれを捨てるのである。わたしには、それを捨てる力があり、またそれを受ける力もある。これはわたしの父から授かった定めである」。

Joh 10:19 これらの言葉を語られたため、ユダヤ人の間にまたも分争が生じた。

Joh 10:20 そのうちの多くの者が言った、「彼は悪霊に取りつかれて、気が狂っている。どうして、あなたがたはその言うことを聞くのか」。

Joh 10:21 他の人々は言った、「それは悪霊に取りつかれた者の言葉ではない。悪霊は盲人の目をあけることができようか」。

Joh 10:22 そのころ、エルサレムで神殿きよめの祭が行われた。時は冬であった。

Joh 10:23 イエスは、神殿の中にあるソロモンの柱廊を歩いておられた。

Joh 10:24 するとユダヤ人たちが、イエスを取り囲んで言った、「いつまでわたしたちの精神をもてあそぶのか。あなたがキリストであるなら、そうとはつきり言っていたらいい」。あなたに話したのだが、あなたがたは信じようとしなさい。わたしの父の名によってしているすべてのわざが、わたしのことを証言している。

Joh 10:26 あなたがたが信じないのは、わたしの羊でないからである。
Joh 10:27 わたしの羊はわたしの声に聞き従う。わたしは彼らを知つており、彼らはわたしについて来る。

Joh 10:28 わたしは、彼らに永遠の命を与える。だから、彼らはいつまでも滅びることがなく、また、彼らをわたしの手から奪い去る者はない。

Joh 10:29 わたしに彼らを与えた私の父は、いかなるものより大きい。そしてだれも父のみ手から、それを奪い取ることはできない。

Joh 10:30 わたしと父とは一つである。
Joh 10:31 そこでユダヤ人たちは、イエスを石打しようとして、石を取りあげた。

Joh 10:32 するとイエスは彼らに答えられた、「わたしは、父による多くのよいわざを、あなたがたに示した。その中のどのわざのためにも、わたしを石打しようとするのか」。

Joh 10:33 ユダヤ人たちは答えた、「あなたを石打ちするのは、よいわざをしたからではなく、神を汚したからである。また、あなたは人間であるのに、自分を神としているからである」。

Joh 10:34 イエスは彼らに答えられた、「あなたがたの律法に、『わたしは言う、あなたがたは神々である』と書いてあるではないか。
Joh 10:35 神の言を託された人々が、神々といわれておるとすれば、（そして聖書の言は、効力が失われることはない）

Joh 10:36 父が聖別して、世につかわされた者が、『わたしは神の子である』と言ったからとて、どうして『あなたは神を汚す者だ』と言うのか。

Joh 10:37 もしわたしが父のわざを行わないとすれば、わたしを信じなくてもよい。

Joh 10:38 しかし、もし行っているなら、たといわたしを信じなくても、わたしのわざを信じるがよい。そうすれば、父がわたしにおり、また、わたしが父におることを知って悟るであろう」。

Joh 10:39 そこで、彼らはまたイエスを捕えようとしたが、イエスは彼らの手をのがれて、去って行かれた。

Joh 10:40 さて、イエスはまたヨルダンの向こう岸、すなわち、ヨハネが最初にバプテスマを授けていた所に行き、そこに滞在しておられた。

Joh 10:41 多くの人々がイエスのところにきて、互に言った、「ヨ

ハネはなんのしるしも行わなかったが、ヨハネがこのかたについて言ったことは、皆ほんとうであった」。
Joh 10:42 そして、そこで多くの者がイエスを信じた。

(第十一章)

Joh 11:1 さて、ひとりの病人がいた。ラザロといい、マリヤとその姉妹マルタの村ベタニヤの人であった。

Joh 11:2 このマリヤは主に香油をぬり、自分の髪の毛で、主の足をふいた女であつて、病氣であつたのは、彼女の兄弟ラザロであつた。

Joh 11:3 姉妹たちは人をイエスのもとにつかわして、「主よ、ただ今、あなたに親しい者が病氣をしています」と言させた。

Joh 11:4 イエスはそれを聞いて言われた、「この病氣は死ぬほどのものではない。それは神の栄光のため、また、神の子がそれによつて栄光を受けるためのものである」。

Joh 11:5 イエスは、マルタとその姉妹とラザロとを愛しておられた。 Joh 11:6 ラザロが病氣であることを聞いてから、なおふつか、そのおられた所に滞在された。

Joh 11:7 それから弟子たちに、「もう一度ユダヤに行こう」と言われた。

Joh 11:8 弟子たちは言った、「先生、ユダヤ人らが、さきほどもあなたを石で殺そうとしていましたのに、またそこに行かれるのですか」。

Joh 11:9 イエスは答えられた、「一日には十二時間あるではないか。昼間あるけば、人はつまづくことはない。この世の光を見ているからである」。

Joh 11:10 しかし、夜あるけば、つまづく。その人のうちに、光がないからである」。

Joh 11:11 そう言われたが、それからまた、彼らに言われた、「わたしたちの友ラザロが眠つたしは彼を起しに行く」。

Joh 11:12 すると弟子たちは言った、「主よ、眠つたのでしたら、助かるでしょう」。

Joh 11:13 イエスはラザロが死んだことを言われたのであるが、弟子たちは、眠けの眠りのことをさして言われたのだと思つた。

Joh 11:14 するとイエスは、あからさまに彼らに言われた、「ラザロは死んだのだ」。

Joh 11:15 そして、わたしがそこにいあわせなかつたことを、あなたのために喜ぶ。それは、あなたがたが信じるようになるためである。では、彼のところに行こう」。

Joh 11:16 すると双子と呼ばれているトマスが、仲間の弟子たちに言った、「わたしたちも行って、先生と一緒に死のうではないか」。

Joh 11:17 さて、イエスが行ってごらんになると、ラザロはすでに四日間も墓の中に置かれていた。

Joh 11:18 ベタニヤはエルサレムに近く、およそ十五スタディオ

(約3 km)ばかり離れたところにあった。

Joh 11:19 大ぜいのユダヤ人が、その兄弟のことで、マルタとマリヤにお悔やみを言おうとしてきていた。

Joh 11:20 マルタはイエスがこられたと聞いて、出迎えに行っていたが、マリヤは家ですわっていた。

Joh 11:21 マルタはイエスに言った、「主よ、もしあなたがここにいて下さったなら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょう。

Joh 11:22 しかし、あなたがどんなことをお願いになっても、神はかなえて下さることを、わたしは今でも存じています」。

Joh 11:23 イエスはマルタに言われた、「あなたの兄弟はよみがえるであろう」。

Joh 11:24 マルタは言った、「終りの日のよみがえりの時よみがえる」とは、存じています」。

Joh 11:25 イエスは彼女に言われた、「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。

Joh 11:26 また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。あなたはこれを信じるか」。

Joh 11:27 マルタはイエスに言った、「主よ、信じます。あなたがこの世にきたるべきキリスト、神の御子であると信じてきましたけれど。」

Joh 11:28 マルタはこう言うてから、帰って姉妹のマリヤを呼び、「先生がおいになつて、あなたを呼んでおられます」とこつそり言った。

Joh 11:29 これを聞いたマリヤはすぐ立ち上がつて、イエスのもとに行つた。

Joh 11:30 イエスはまだ村に、はいつてこられず、マルタがお迎えしたその場所におられた。

Joh 11:31 マリヤと一緒に家にいて彼女を慰めていたユダヤ人たちは、マリヤが急いで立ち上がつて出て行くのを見て、彼女は墓に泣きに行くのであろうと思ひ、そのあとからついて行つた。

Joh 11:32 マリヤは、イエスのおられる所に行つてお目にかかり、その足もとにひれ伏して言った、「主よ、もしあなたがここにいて下さつたなら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょう」。

Joh 11:33 イエスは、彼女が泣き、また、彼女と一緒にきたユダヤ人たちも泣いているのをごらんになり、霊にて激しく息をして、みずから混乱して、そして言われた、

Joh 11:34 「彼をどこに置いたのか」。彼らはイエスに言った、「主よ、きて、ごらん下さい」。

Joh 11:35 イエスは涙を流された。

Joh 11:36 するとユダヤ人たちは言った、「ああ、なんと彼を愛しておられたことか」。

Joh 11:37 しかし、彼らのある人たちは言った、「あの盲人の目をあけたこの人でも、ラザロを死なせないようには、できなかつたのか」。

Joh 1:38 イエスは霊にて激しく息をして、墓にはいられた。それは洞穴であつて、そこに石がはめてあつた。

Joh 1:39 イエスは言われた、「石を取りのけなさい」。死んだラザロの姉妹マルタが言った、「主よ、もう臭くなつております。四日もたつていますから」。

Joh 1:40 イエスは彼女に言われた、「もし信じるなら神の栄光を見るであらうと、あなたに言ったではないか」。

Joh 1:41 人々は石を取りのけた。すると、イエスは目を天にむけて言われた、「父よ、わたしの願いをお聞き下さつたことを感謝します」。

Joh 1:42 あなたがいつでもわたしの願いを聞きいれて下さることを、よく知っています。しかし、こう申しますのは、そばに立っている人々に、あなたがわたしをつかわされたことを、信じさせるためであります」。

Joh 1:43 こう言いながら、大声で「ラザロよ、出てきなさい」と呼ばわれた。

Joh 1:44 すると、死人は手足を包帯でまかれ、顔も顔おおいで包まれたまま、出てきた。イエスは人々に言われた、「彼をほどいてやつて、帰らせなさい」。

Joh 1:45 マリヤのところに来て、イエスのなさつたことを見た多くのユダヤ人たちは、イエスを信じた。

Joh 1:46 しかし、そのうちの数人がパリサイ派の者たちのところに行つて、イエスのされたことを告げた。

Joh 1:47 そこで、祭司長たちとパリサイ派の者たちとは、議会を召集して言った、「この人が多くのしるしを行っているのに、お互は何をしているのだ」。

Joh 1:48 もしこのままにしておけば、みんなが彼を信じるようになるだろう。そのうえ、ローマ人がやつてきて、わたしたちの土地も人民も奪つてしまふであらう」。

Joh 1:53 彼らはこの日からイエスを殺そうと決議した。

Joh 1:54 そのためイエスは、もはや公然とユダヤ人の間を歩かないで、そこを出て、荒野に近い地方のエフライムという町に行かれ、そこに弟子たちと一緒に滞在しておられた。

Joh 1:55 さて、ユダヤ人の過越の祭が近づいたので、多くの人々は身をきよめるために、祭の前に、地方からエルサレムへ上つた。

Joh 1:56 人々はイエスを捜し求め、神殿の庭に立って互に言った、「あなたがたはどう思うか。イエスはこの祭にこないのだろうか」。

Joh 1:57 祭司長たちとパリサイ派の者たちとは、イエスを捕えようとして、そのいどころを知っている者があれば申し出よ、という指令を出していた。

Joh 12:1 過越の祭の六日まえに、イエスはベタニヤに行かれた。そこは、イエスが死人の中からよみがえらせたラザロのいた所である。
Joh 12:2 イエスのためにそこで宴会の用意がされ、マルタは給仕をしていた。イエスと一緒に食卓についていた者のうちに、ラザロも加わっていた。

Joh 12:3 その時、マリヤは高価で純粋なナルドの香油一リトラ（約4分1リットル）を持ってきて、イエスの足にぬり、自分の髪の毛でそれをふいた。すると、香油のかおりが家にいっぱいになった。

Joh 12:4 弟子のひとりで、イエスを裏切ろうとしていたイスカリオテのユダが言った、

Joh 12:5 「なぜこの香油を三百デナリに売って、貧しい人たちに、施さなかったのか」。

Joh 12:6 彼がこう言ったのは、貧しい人たちに対する思いやりがあったからではなく、自分が盗人であり、物入れを預かっていて、その中身を横領していたからであった。

Joh 12:7 イエスは言われた、「この女のするままにさせておきなさい。わたしの葬りの日のために、それをとっておけるように」。

Joh 12:8 貧しい人たちはいつもあなたがあた自身と共にいるが、わたしはいつも共にいるわけではない」。

Joh 12:9 大ぜいのユダヤ人たちが、そこにイエスのおられるのを知って、押しよせてきた。それはイエスに会うためだけではなく、イエスが死人のなかから、よみがえらせたラザロを見るためでもあった。

Joh 12:10 そこで祭司長たちは、ラザロも殺そうと決議した。

Joh 12:11 それは、ラザロのことで、多くのユダヤ人が彼らを離れ去って、イエスを信じたからである。

Joh 12:12 その翌日、祭にきていた大ぜいの群衆は、イエスがエルサレムにこられると聞いて、

Joh 12:13 椰子の枝を手にとり、迎えに出て行った。そして叫んだ、「ホサナ、主の御名によってきたる者に祝福あれ、イスラエルの王に」。

Joh 12:14 イエスは、ろばの子を見つけて、その上に乗られた。それは

Joh 12:15 「シオンの娘よ、恐れるな。見よ、あなたの王がろばの子に乗っておいでになる」と書いてあるとおりであった。

Joh 12:16 弟子たちは初めにはこのことを悟らなかつたが、イエスが栄光を受けられた時に、このことがイエスについて書かれてあり、またそのとおりに、人々がイエスに対してしたのだということをし、思いだした。

Joh 12:17 また、イエスがラザロを墓から呼び出して、死人の中からよみがえらせたとき、イエスと一緒にいた群衆が、その証言をした。

Joh 12:18 群衆がイエスを迎えに出たのは、イエスがこのようなしるしを行われたことを、聞いていたからである。

Joh 12:19 そこで、パリサイ派の者たちは互に言った、「何をして
もむだだった。世間の者たち彼のあとを追って行った、(我々から)
離れていった」。
Joh 12:20 神殿で礼拝するために上ってきた人々のうちに、数人の
ギリシヤ人がいた。
Joh 12:21 彼らはガリラヤのベツサイダ出である。ピリポのところ
きて、「ご主人よ、イエスにお目にかかりたいのですが」と言っ
て頼んだ。
Joh 12:22 ピリポはアンデレのところに行つてそのことを話し、ア
ンデレとピリポは、イエスのもとに行つて伝えた。
Joh 12:23 すると、イエスは答えて言われた、「人の子が栄光を受
ける時がきた。
Joh 12:24 よくよくあなたがたに言つておく。麦の粒が地に落ちて
死ななければ、そのままである。しかし、もし死んだなら、豊かに
実を結ぶようになる。
Joh 12:25 自分の命を愛する者はそれを失い、この世で自分の命を
憎む者は、それを保つて永遠の命に至るであろう。
Joh 12:26 もしわたしに仕えようとするとする人があれば、その人はわた
しに従つて来るがよい。そうすれば、わたしのおる所に、わたしに
仕える者もまた、おるであろう。もしわたしに仕えようとするとする人が
あれば、その人は父は敬意を表するであろう。
Joh 12:27 今わたしの精神は混乱している。わたしはなんと言おう
か。父よ、この時からわたしを救い下さい。しかし、わたしはこ
のため、この時に至つたのです。
Joh 12:28 父よ、み名があがめられますように」。すると天から声
があつた、「わたしはすでに栄光をあらわした。そして、更にそれ
をあらわすであらう」。
Joh 12:29 すると、そこに立つていた群衆がこれを聞いて、「雷が
なつたのだ」と言い、ほかの人たちは、「御使が彼に話しかけたの
だ」と言つた。
Joh 12:30 イエスは答えて言われた、「この声があつたのは、わた
しのためではなく、あなたがたのためである。
Joh 12:31 今はこの世がさばかれる時である。今こそこの世の君は
追い出されるであらう。
Joh 12:32 そして、わたしがこの地から上げられる時には、すべて
の人をわたしのところに引きよせるであらう」。
Joh 12:33 イエスはこう言つて、自分がどんな死に方で死のうとし
ていたかを、お示しになつたのである。
Joh 12:34 すると群衆はイエスにむかつて言つた、「わたしたちは
律法によつて、キリストはいつまでも生きておいでになるのだ」と
学んでいます。それなのに、どうして人の子は上げられねばなら
ないと言われるのですか。その人の子とは、だれのことですか」。
Joh 12:35 そこでイエスは彼らに言われた、「もうしばらくの間、
光はあなたがたと一緒にここにある。光がある間に歩いて、やみに

追いつかれないようにしなさい。やみの中を歩く者は、自分がどこへ行くのかわかっていない。

Joh 12:36 光のある間に、光の子となるために、光を信じなさい」。

イエスはこれらのことを話してから、そこを立ち去って、彼らから身をお隠しになった。

Joh 12:42 しかし、長老たちの中にも、イエスを信じた者が多かったが、パリサイ派の者をはばかって、告白はしなかった。会堂追放者とされるのを恐れていたのである。

Joh 12:43 彼らは神のほまれよりも、人のほまれを好んだからである。

Joh 12:44 イエスは大声で言われた、「わたしを信じる者は、わたしを信じるのではなく、わたしをつかわれてかたを信じるのである。また、わたしをよく見る者は、わたしをつかわれてかたを見るのである。

Joh 12:46 わたし世に対する光として来た。それは、わたしを信じる者が、やみのうちにとどまらないようになるためである。

Joh 12:47 たとい、わたしの言うことを聞いてそれを守らない人があっても、わたしはその人をさばかない。わたしが来たのは、この世をさばくためではなく、この世を救うためである。

(第十三章)

Joh 13:1 過越の祭の前に、イエスは、この世から移って父のみもとに行くべき自分の時が来たことを知り、世にいる自分の者たちを愛して、彼らを最後まで愛し通された。

Joh 13:2 晩餐のとき、悪魔はすでにシモンの子イスカリオテのユダの心に、イエスを引き渡そうとする思いを入れていたが、

Joh 13:3 イエスは、父がすべてのものを自分の手にお与えになったこと、また、自分は神から出てきて、神にかえろうとしていることを思い、

Joh 13:4 晩餐の席から立ち上がって、上着を脱ぎ、手ぬぐいをとって腰に巻き、

Joh 13:5 それから水をたらいに入れて、弟子たちの足を洗い、腰に巻いた手ぬぐいでふき始められた。

Joh 13:6 こうして、シモン・ペテロの番になった。すると彼はイエスに、「主よ、あなたがわたしの足をお洗いになるのですか」と言った。

Joh 13:7 イエスは彼に答えて言われた、「わたしのしていることは今あなたにはわからないが、あとでわかるようになるだろう」。

Joh 13:8 ペテロはイエスに言った、「わたしの足を決して洗わないで下さい」。イエスは彼に答えられた、「もしわたしがあなたの足を洗わないなら、あなたはわたしとなんの係わりもなくなる」。

Joh 13:9 シモン・ペテロはイエスに言った、「主よ、では、足だけ

ではなく、どうぞ、手も頭も」。

Joh 13:12 こうして彼らの足を洗ってから、上着をつけ、ふたたび席にもどって、彼らに言われた、「わたしがあなたがたにしたことがわかるか。

Joh 13:13 あなたがたはわたしを教師、また主と呼んでいる。そう言うのは正しい。わたしはそのとおりである。

Joh 13:14 しかし、主であり、また教師であるわたしが、あなたがたの足を洗ったからには、あなたがたもまた、互に足を洗い合うべきである。

Joh 13:15 わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしは手本を示したのだ。

Joh 13:16 よくよくあなたがたに言うておく。奴隷はその主人よりは大きくはなく、使徒はつかわした者より大きくはない。

Joh 13:17 もしこれらのことがわかっていて、それを行うなら、あなたがたはさいわいである。

Joh 13:21 イエスがこれらのことを言われた後、霊にて激しく息をし、自ら混乱して言われた、「よくよくあなたがたに言うておく。

あなたがたのうちのひとり、わたしを引き渡そうとしている」。Joh 13:22 弟子たちはだれのことを言われたのか察しかねて、互に顔を見合わせた。

Joh 13:23 弟子たちのひとり、イエスの愛しておられた者が、み胸のところで席についていた。

Joh 13:24 そこで、シモン・ペテロは彼に合図をして言った、「だれのことをおっしゃったのか、知らせてくれ」。

Joh 13:25 その弟子はそのままイエスの胸によりかかって、「主よ、だれのことですか」と尋ねると、

Joh 13:26 イエスは答えられた、「わたしが一きれの食物をひたして与える者が、それである」。そして、一きれの食物をひたしてとり上げ、シモンの子イスカリオテのユダにお与えになった。

Joh 13:27 この一きれとともに、サタンがユダにはいった。そこでイエスは彼に言われた、「しようとしていることを、今すぐするがよい」。

Joh 13:30 ユダは一きれの食物を受けると、すぐに出て行った。時は夜であった。

Joh 13:31 さて、彼が出て行くと、イエスは言われた、「今や人の子は栄光を受けた。神もまた彼によつて栄光をお受けになった。

Joh 13:36 シモン・ペテロがイエスに言った、「主よ、どこへおいでになるのですか」。イエスは答えられた、「あなたはわたしの行くところ、今はついて来ることはできない。しかし、あとになつてから、ついて来ることになる」。

Joh 13:37 ペテロはイエスに言った、「主よ、なぜ、今あなたにつ

いて行くことができないのですか。あなたのためには、命も捨てます」。
Joh 13:38 イエスは答えられた、「わたしのために命を捨てると言うのか。よくよくあなたに言っておく。鶏が鳴く前に、あなたはわたしを三度知らないと言うであろう」。

(第十四章)

Joh 14:1 「あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい。」

Joh 14:2 わたしの父の家には、滞在場所がたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言っておいたであろう。あなたがたのために、場所を用意しに行くのだから。

Joh 14:4 わたしがどこへ行くのか、その道はあなたがたにわかっている」。

Joh 14:5 トマスはイエスに言った、「主よ、どこへおいでになるのか、わたしたちにはわかりません。どうしてその道がわかるでしょう」。

Joh 14:6 イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、生命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。」

Joh 14:7 もしあなたがたがわたしを知っていたならば、わたしの父をも知ったであろう。しかし、今は父を知っており、またすでに父を見たのである」。

Joh 14:8 ピリポはイエスに言った、「主よ、わたしたちに父を示して下さい。そうして下されば、わたしたちは満足します」。

Joh 14:9 イエスは彼に言われた、「ピリポよ、こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしがわかっているのか。わたしを見た者は、父を見たのである。どうして、わたしたちに父を示してほしいと、言うのか。」

Joh 14:10 わたしが父におり、父がわたしにおられることをあなたは信じないのか。わたしがあなたがたに話している言葉は、自分から話しているのではない。父がわたしのうちにおられて、みわざをなさっているのである。

Joh 14:11 わたしが父におり、父がわたしにおられることを信じなさい。もしそれが信じられないならば、わざそのものによつて信じなさい。

Joh 14:16 わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け手を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。

Joh 14:17 それは真理の聖霊である。この世はそれを見ようともせず、知ろうともしないので、それを受けることができない。あなたがたはそれを知っている。なぜなら、それはあなたがたと共におり、

またあなたがたのうちにいるからである。

Joh 14:19 もうしばらくしたら、世はもはやわたしを見なくなるだろう。しかし、あなたがたはわたしを見る。わたしが生きるのだから、あなたがたも生きるからである。

Joh 14:26 しかし、助け手、すなわち、父がわたしの名によってかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう。
Joh 14:27 わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。

Joh 14:29 今わたしは、そのことが起らない先にあなたがたに語った。それは、事が起った時にあなたがたが信じるためである。
Joh 14:30 わたしはもはや、あなたがたに、多くを語るまい。この世の支配者が来るからである。だが、彼はわたしの中に何も持っていない。
Joh 14:31 しかし、わたしが父を愛していることを世が知るように、わたしは父がお命じになったとおりのことを行うのである。立て。さあ、外に行こう。

(第十五章)
教会的編集者の作文であるので全文削除

(第十六章)
教会的編集者の作文であるので全文削除

(第十七章)
教会的編集者の作文であるので全文削除

(第十八章)

Joh 18:1 イエスはこう言って、弟子たちと一緒にケデロンの川の向こうへ行かれた。そこには園があつて、イエスは弟子たちと一緒にその中にはいられた。

Joh 18:2 イエスを裏切ったユダは、その所をよく知っていた。イエスと弟子たちとがたびたびそこで集まったことがあるからである。
Joh 18:3 さてユダは、一隊の兵卒と祭司長やパリサイ派の者たちの送った下役どもを引き連れ、たいまつやあかりや武器を持って、そこへやってきた。

Joh 18:4 しかしイエスは、自分の身に起ろうとすることをことごとく承知しておられ、進み出て彼らに言われた、「だれを捜しているのか」。

Joh 18:5 彼らは「ナザレのイエスを」と答えた。イエスは彼らに言われた、「わたしが、それである」。イエスを裏切ったユダも、彼らと一緒に立っていた。

Joh 18:6 イエスが彼らに「わたしが、それである」と言われたとき、彼らはうしろに引きさがって地に倒れた。

Joh 18:7 そこでまた彼らに、「だれを捜しているのか」とお尋ねになると、彼らは「ナザレのイエスを」と言った。

Joh 18:8 イエスは答えられた、「わたしがそれであると、言ったではないか。わたしを捜しているのなら、この人たちを去らせてもらいたい」。

Joh 18:10 シモン・ペテロは剣を持っていたが、それを抜いて、大祭司の僕に切りかかり、その右の耳を切り落した。その僕の名はマルコスであった。

Joh 18:11 すると、イエスはペテロに言われた、「剣をさやに納めなさい。父がわたしに下さった杯は、飲むべきではないか」。

Joh 18:12 それから一隊の兵卒やその千卒長やユダヤ人の下役どもが、イエスを捕え、縛りあげて、

Joh 18:13 まずアンナスのところ引き連れて行った。彼はその年の大祭司カヤパのしゅうとであった。

Joh 18:15 シモン・ペテロともうひとりの弟子とが、イエスについて行った。この弟子は大祭司の知り合いであったので、イエスと一緒に大祭司の中庭にはいった。

Joh 18:16 しかし、ペテロは外で戸口に立っていた。すると大祭司の知り合いであるその弟子が、外に出て行って門番の女に話し、ペテロを内に入れてやった。

Joh 18:17 すると、この門番の女がペテロに言った、「あなたも、あの人の弟子のひとりではありませんか」。ペテロは「いや、そうではない」と答えた。

Joh 18:18 僕や下役どもは、寒い時であったので、炭火をおこし、そこに立ってあたっていた。ペテロもまた彼らに交じり、立ってあたっていた。

Joh 18:19 大祭司はイエスに、弟子たちのことやイエスの教のことを尋ねた。

Joh 18:20 イエスは答えられた、「わたしはこの世に對して公然と語ってきた。すべてのユダヤ人が集まる会堂や神殿で、いつも教えていた。何事も隠れて語ったことはない」。

Joh 18:21 なぜ、わたしに尋ねるのか。わたしが彼らに語ったことは、彼らが知っているのだから」。わたしが彼らに語ったことは、彼

Joh 18:22 イエスがこう言われると、そこに立っていた下役のひとり、大祭司にむかって、そのような答をするのか」と言って、平手でイエスを打った。

Joh 18:23 イエスは答えられた、「もしわたしが何か悪いことを言ったのなら、その悪い理由を言いなさい。しかし、正しいことを言ったのなら、なぜわたしを打つのか」。
Joh 18:24 それからアンナスは、イエスを縛ったまま大祭司カヤパのところへ送った。
Joh 18:25 シモン・ペテロは、立って火にあたっていた。すると人々が彼に言った、「あなたも、あの人の弟子のひとりではないか」。彼はそれをうち消して、「いや、そうではない」と言った。
Joh 18:26 大祭司の僕のひとりで、ペテロに耳を切りおとされた人の親族の者が言った、「あなたが園であの人と一緒にいるのを、わたしは見ただけではないか」。
Joh 18:27 ペテロはまたそれを打ち消した。するとすぐに、鶏が鳴いた。
Joh 18:28 それから人々は、イエスをカヤパのところから官邸に連れて行った。時は夜明けであった。彼らは、けがれを受けないで超越の食事ができるように、官邸にはいらなかった。
Joh 18:29 そこで、ピラトは彼らのところに出てきて言った、「あなたがたは、この人に対してどんな訴えを起すのか」。
Joh 18:30 彼らはピラトに答えて言った、「もしこの人が悪事をはたらかなかったなら、あなたに引き渡すようなことはしない」。
Joh 18:31 そこでピラトは彼らに言った、「あなたがたは彼を引き取って、自分たちの律法でさばくがよい」。ユダヤ人らは彼に言った、「わたしたちには、人を死刑にする権限がありません」。
Joh 18:32 これは、ご自身がどんな死にかたをしようとしているかを示すために言われたイエスの言葉が、成就するためである。
Joh 18:33 さて、ピラトはまた官邸にはいり、イエスを呼び出して言った、「あなたは、ユダヤ人の王であるか」。
Joh 18:34 イエスは答えられた、「あなたがそう言うのは、自分の考えからか。それともほかの人々が、わたしのことあなたにそう言ったのか」。
Joh 18:35 ピラトは答えた、「わたしはユダヤ人であるわけではない。あなたの同族や祭司長たちが、あなたをわたしに引き渡したのだ。あなたは、いったい、何をしたのか」。
Joh 18:36 イエスは答えられた、「わたしの国はこの世のものではない。もしわたしの国がこの世のものであれば、わたしに従っている者たちは、わたしをユダヤ人に渡さないように戦ったであろう。しかし事実、わたしの国はこの世のものではない」。
Joh 18:37 そこでピラトはイエスに言った、「それでは、あなたは王なのだ」。イエスは答えられた、「あなたの言うとおり、わたしは王である。わたしは真理について証言をするために生れ、また、そのためにこの世にきたのである。だれでも真理につく者は、わたしの声に耳を傾ける」。
Joh 18:38 ピラトはイエスに言った、「真理とは何か」。こう言って、彼はまたユダヤ人の所に出て行き、彼らに言った、「わたしに

は、この人になんの訴因も見いだせない。
Joh 18:39 過越の時には、わたしがあなたがたのために、ひとりの人を許してやるのが、あなたがたのしきたりになっている。ついては、あなたがたは、このユダヤ人の王を許してもらいたいのか」。
Joh 18:40 すると彼らは、また吠えて「その人ではなく、バラバを」と言った。このバラバは強盗であった。

(第十九章)

Joh 19:1 そこでピラトは、イエスを捕え、むちで打たせた。

Joh 19:2 兵卒たちは、いばらで冠をあんで、イエスの頭にかぶらせ、紫の上着を着せ、

Joh 19:3 それから、その前に進み出て、「拝啓、ユダヤ人の王」と言った。そして平手でイエスを打ちつづけた。

Joh 19:4 するとピラトは、また出て行ってユダヤ人たちに言った、「見よ、わたしはこの人をあなたがたの前に引き出す、それはこの人になんの罪も見いだせないことを、あなたがたに知ってもらうためである」。

Joh 19:5 イエスはいばらの冠をかぶり、紫の上着を着たまま外へ出られると、ピラトは彼らに言った、「見よ、この人」。

Joh 19:6 祭司長たちや下役どもはイエスを見ると、叫んで「十字架につけよ、十字架につけよ」と言った。ピラトは彼らに言った、「あなただったが、この人を引き取って十字架につけるがよい。わたしは、彼にはなんの訴因も見いだせない」。

Joh 19:7 ユダヤ人たちは彼に答えた、「わたしたちには律法があります。その律法によれば、彼は自分を神の子としたのだから、死罪に当る者です」。

Joh 19:8 ピラトがこの言葉を聞いたとき、ますますおそれ、

Joh 19:9 もう一度官邸にはいつてイエスに言った、「あなたは、もともと、どこからきたのか」。しかし、イエスはなんの答もなさらなかった。

Joh 19:10 そこでピラトは言った、「何も答えないのか。わたしには、あなたを許す権威があり、また十字架につける権威があることを、知らないのか」。

Joh 19:11 イエスは答えられた、「あなたは、上から賜わるのでなければ、わたしに対してなんの権威もない。だから、わたしをあなたに引き渡した者の罪は、もつと大きい」。

Joh 19:12 これを聞いて、ピラトはイエスを許そうと努めた。しかしユダヤ人たちが叫んで言った、「もしこの人を許したなら、あなたはカイザルの味方ではありません。自分を王とするものはすべて、カイザルにそむく者です」。

Joh 19:13 ピラトはこれらの言葉を聞いて、イエスを外へ引き出し、行き、敷石（ヘブル語ではガバタ）を敷き詰めた所にある裁き壇で裁判の席についた。

Joh 19:14 その日は過越の準備の日であって、時は昼の十二時ころであった。ピラトはユダヤ人らに言った、「見よ、これがあなたがたの王だ」。

Joh 19:15 すると彼らは叫んだ、「あげろ、あげろ、彼を十字架につけよ」。ピラトは彼らに言った、「あなたがたの王を、わたしが十字架につけるのか」。祭司長たちは答えた、「わたしたちには、カイザル以外に王はありません」。

Joh 19:16 そこでピラトは、十字架につけさせるために、イエスを彼らに引き渡した。彼らはイエスを引き取った。

Joh 19:17 イエスはみずから十字架を背負って、されこうべ（ヘブル語ではゴルゴダ）という場所に出て行かれた。

Joh 19:18 彼らはそこで、イエスを十字架につけた。イエスをまんなにして、ほかのふたりの者を両側に、イエスと一緒に十字架につけた。

Joh 19:19 ピラトは表示書きを書いて、十字架の上にかかせた。

それには「ユダヤ人の王、ナザレのイエス」と書いてあった。

Joh 19:20 イエスが十字架につけられた場所は都に近かったので、多くのユダヤ人がこの表示書きを読んだ。それはヘブル、ローマ、ギリシヤの国語で書いてあった。

Joh 19:21 ユダヤ人の祭司長たちがピラトに言った、「『ユダヤ人の王』と書かずに、『この人はユダヤ人の王と自称していた』と書いてほしい」。

Joh 19:22 ピラトは答えた、「わたしが書いたことは、書いたままにしておけ」。

Joh 19:23 さて、兵卒たちはイエスを十字架につけてから、その上着をとって四つに分け、おのおの、その一つを取った。

Joh 19:25 さて、イエスの十字架のそばには、イエスの母と、母の姉妹と、クロパの妻マリヤと、マグダラのマリヤとが、立っていた。

Joh 19:26 イエスは、その母と愛弟子とがそばに立っているのをごらんになって、母にいわれた、「婦人よ、ごらんなさい。これはあなたの子です」。

Joh 19:27 それからこの弟子に言われた、「ごらんなさい。これはあなたの母です」。そのとき以来、この弟子はイエスの母を自分の家に引きとった。

Joh 19:28 そののち、イエスは今や万事が終ったことを知って、「わたしは、かわく」と言われた。それは、聖書が全うされるためであった。

Joh 19:29 ここに、酔いぶどう酒がいっぱい入れてある器がおいであつたので、人々は、このぶどう酒を含ませた海綿をヒソプの莖に結びつけて、イエスの口もとにさし出した。

Joh 19:30 すると、イエスはそのぶどう酒を受けて、「すべてが終った」と言われ、首をたれて息をひきとられた。

Joh 19:31 さてユダヤ人たちは、その日が準備の日であつたので、

安息日に死体を十字架の上に残しておくまいと、（特にその安息日は大事な日であつたから）、ピラトに願つて、足を折つた上で、死体を取りおろすことにした。

Joh 19:32 そこで兵卒らがきて、イエスと一緒に十字架につけられた初めの者と、もうひとりの者との足を折つた。

Joh 19:33 しかし、彼らがイエスのところに来た時、イエスはもう死んでおられたのを見て、その足を折ることはしなかつた。

Joh 19:34 しかし、ひとりの兵卒がやりでそのわきを突きさすと、すぐ血と水とが流れ出た。

Joh 19:35 それを見た者が証言をした。そして、その証言は真実である。その人は、自分が真実を語っていることを知っている。それは、あなたがたも信ずるようになるためである。

Joh 19:36 これらのことが起つたのは、「その骨はくだかれないであらう」との聖書の言葉が、成就するためである。

Joh 19:37 また聖書のほかのところに、「彼らは自分が刺し通した者を見るであらう」とある。

Joh 19:38 そののち、ユダヤ人をはばかり、ひそかにイエスの弟子となつたアリマタヤのヨセフという人が、イエスの死体を取りおろしたいと、ピラトに願い出た。ピラトはそれを許したので、彼はイエスの死体を取りおろしに行った。

Joh 19:39 また、前に、夜、イエスのみもとに行つたニコデモも、没薬と沈香とをまぜたものを百リトラ（約25リットル）ほど持つてきた。

Joh 19:40 彼らは、イエスの死体を取りおろし、ユダヤ人の埋葬の習慣にしたがつて、香料を入れて亜麻布で巻いた。

Joh 19:41 イエスが十字架にかけられた所には、一つの園があり、そこにはまだだれも葬られたことのない新しい墓があつた。

Joh 19:42 その日はユダヤ人の準備の日であつたので、その墓が近くにあつたため、イエスをそこに納めた。

（第二十章）

Joh 20:1 さて、週の初めの日に、朝早くまだ暗いうちに、マグダラのマリヤが墓に行くと、墓から石がとりのけてあるのを見た。

Joh 20:2 そこで走つて、シモン・ペテロとイエスが愛しておられた、もうひとりの弟子のところへ行つて、彼らに言つた、「主が墓から取り去りられました。どこへ置いたのか、私たちはわかりません」。

Joh 20:3 そこでペテロともうひとりの弟子は出かけて、墓へむかつて行つた。

Joh 20:4 ふたりは一緒に走り出したが、そのもうひとりの弟子の方が、ペテロよりも早く走つて先に墓に着き、

Joh 20:5 そして身をかがめてみると、亜麻布がそこに置いてあるのを見たが、中へははいらなかつた。

Joh 20:6 シモン・ペテロも続いてきて、墓の中にはいった。彼は亜

麻布がそこに置いてあるのを見たが、

Joh 20:7 イエスの頭に巻いてあった布は亜麻布のそばにはなくて、はなれた別の場所にくるめてあった。

Joh 20:8 すると、先に墓に着いたもうひとりの弟子もはいつてきて、これを見て信じた。

Joh 20:10 それから、ふたりの弟子たちは自分たちのところに帰って行った。

Joh 20:11 しかし、マリヤは墓の外に立って泣いていた。そして泣きながら、身をかがめて墓の中をのぞくと、

Joh 20:12 白い衣を着たふたりの天使が、イエスの死体のおかれていた場所に、ひとり頭の方に、ひとりは足の方に、すわっているのを見た。

Joh 20:13 すると、彼らはマリヤに、「女よ、なぜ泣いているのか」と言った。マリヤは彼らに言った、「だれかが、わたしの主を取り去りました。そして、どこに置いたのか、わからないのです」。

Joh 20:14 そう言って、うしろをふり向くと、そこにイエスが立っておられるのを見た。しかし、それがイエスであることに気がつかなかった。

Joh 20:15 イエスは女に言われた、「女よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか」。マリヤは、その人が園の番人だと思っただれを捜しているのか。もしあなたが、あのかたを移したのでしたら、どこへ置いたのか、どうぞ、おっしゃって下さい。わたしがそのかたを引き取ります」。

Joh 20:16 イエスは彼女に「マリヤよ」と言われた。マリヤはふり返って、イエスにむかってへブル語で「ラボニ」と言った。それは、先生という意味である。

Joh 20:17 イエスは彼女に言われた、「わたしにさわってはいけない。わたしは、まだ父のみもとに上っていないのだから。(・・・この間編集者による作文・・)」。

Joh 20:18 マグダラのマリヤは弟子たちのところに行つて、自分が主に会ったことを報告した。

Joh 20:19 その日、すなわち、週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人をおそれて、自分たちのおる所の戸をしめていると、イエス

Joh 20:20 そう言って、手とわきとを、彼らにお見せになった。弟子たちは主を見て喜んだ。

Joh 20:24 十二弟子のひとりで、デドモと呼ばれているトマスは、イエスがこられたとき、彼らと一緒にいなかった。

Joh 20:25 ほかの弟子たちが、彼に「わたしたちは主にお目にかかった」と言うのと、トマスは彼らに言った、「わたしは、その手に釘あとを見、わたしの指をその釘あとにさし入れ、また、わたしの手をそのわきにさし入れてみなければ、決して信じない」。

Joh 20:26 八日ののち、イエスの弟子たちはまた家の内において、トマスも一緒にいた。戸は閉ざされていたが、イエスがはいってこれ、中に立って「安かれ」と言われた。
Joh 20:27 それからトマスに言われた、「あなたの指をここに付けて、わたしの手を見なさい。手をのばしてわたしのわきにさし入れてみなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい」。
Joh 20:28 トマスはイエスに答えて言った、「わが主よ、わが神よ」。
Joh 20:29 イエスは彼に言われた、「あなたはおわたしを見たので信じたのか。見ないで信ずる者が、さいわいである」。

(第二十一章)

だいぶ後になつて付加された部分。